

会 議 録

1 会議名

令和6年度第7回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域独自の予算事業の一覧について（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年3月18日（火）午後6時30分から午後7時50分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 坪田会長、横田副会長、笠原委員、佐藤（和）委員、佐藤（幸）委員、
白滝委員、田村委員、中原委員、番場委員（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田村委員に依頼

議題【報告事項】地域独自の予算事業の一覧について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料「令和7年度地域独自の予算事業 地域自治区別事業一覧表」に基づき説明

【坪田会長】

今ほどの事務局の説明について、質疑や意見はあるか。

【白滝委員】

地域独自の予算事業の予算はどのような形で決まるのか。

【佐藤所長】

地域独自の予算事業は、まず団体の皆さんからこのような事業をしたいというご相談をいただき、私たち職員とお話をしながら事業を練り上げる。8月末ぐらいをめどに事業内容をまとめ、市に提案いただく。その提案をもとに、市の内部で調整し、市の予算案に計上する。3月の市議会で審査を受け、最終的に議決をいただき予算が成案となる。年度が明けて4月になると、市は提案された団体の皆さんに予算に基づき補助金交付決定をし、各団体に事業を実施していただくことになる。

【白滝委員】

この地域協議会で何か発案して、事業を実施するため、予算を確保するということはあり得るか。

【佐藤所長】

それも可能になっている。他区の地域協議会では、協議会の中で事業案を練り上げ、提案し、新年度予算に計上した事例もある。ただし地域協議会が事業案を作成する場合は、実際に事業を実施する団体を事前に決めておくことが必要になる。

【白滝委員】

これから地域協議会の中で、いろいろと意見交換をしながら地域おこしの活動案をまとめつつ、どこの団体と組んでやっていくかを協議していく必要があるということか。

【横田副会長】

地域協議会の働きかけで、新しい事業実施の団体を作るということもあり得る。

【佐藤所長】

団体の構成は二人以上としている。団体は地域の皆さん、町内会の皆さん等を想定しており、その事業に市が補助する流れとなっている。

【中原委員】

現在の自己負担割合はどうなっているか。提案するのはいいが、自己負担分の財源が

ないと事業実施を受けてくれる団体はいないと思う。

【石崎係長】

本日ご紹介させていただいた令和8年事業については、新規事業は補助率が7割、自己負担は3割、継続事業は補助率が9割、自己負担1割はとなっている。令和9年以降の補助率は協議中である。

【佐藤（幸）委員】

関連してお尋ねしたい。

私は地域協議会委員1期目であり、地域独自の予算事業の補助率は、今初めて聞いたような感覚である。

かみえちご山里ファン倶楽部の事業が掲載されているが、本を作り販売するという事業になっている。そうすると、自己負担を確保して、利益が出る可能性もあるのではないか。そのあたりは、ほかの事業と若干違うのではないかと思うので説明いただきたい。

【石崎係長】

事業として収入があった場合は、その収入も含めて事業実績として報告いただく。その収入を含めた上で、最大7割、継続事業では最大9割を補助する。

【坪田会長】

ほかに意見を求めるがなし。

議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1「【谷浜・桑取区】地域活性化の方向性を基にした意見の整理表

(R6.9.25/10.29 意見追加)」に基づき説明

これから会長の進行で、「地域で行われている行事について」、「移住について」、「空き家対策について」の三つについて、視察勉強、意見交換先のアイデアを出していただきたい。

【坪田会長】

事務局の説明に補足を加えたい。

「伝統行事、史跡、文化の継承について」は、令和5年に地域協議会と団体での意見交換を行っており、「団体のできる範囲で行事を続けたい」との意向を確認している。そのような経緯から、今の段階では地域協議会との意見交換を見送ることとしたいと考えている。

「学校を取り巻く環境について」はデリケートな案件である。地域協議会は、保護者の意向や、教育総務課からの報告を待つこととしたいと考えている。

「くわどり湯ったり村について」は、4月からゆめ企画名立が経営者となる。地域協議会としての関わりは、一つの役割を終え、また新たな民間の経営に期待したいと思う。

事務局からの説明や私からの補足を踏まえ、視察勉強、意見交換について、意見をお伺いしたい。

【白滝委員】

今期に関しては、「伝統行事、史跡、文化の継承について」の話はしないということになるのか。後で出てくると思うが、移住や、空き家の対策など、活性化についてのいろいろなアプローチの中で、行事や文化、史跡も関わってくると思う。だから、分けられない、どうしたらいいのかとを感じる。

【坪田会長】

一つのをやれば、それについてくるものが必ずあり、関連してくる。

【横田副会長】

それぞれのテーマが並列であるのではなく、大きなテーマの中で、階層的に絡んでくる部分があると思う。移住や空き家対策、人を呼ぶとなると、この地区の魅力を発信するような行事やイベント、また大きく捉えれば、ゆめ企画名立が経営するくわどり湯ったり村が、どのような形で人呼び込むかなど、絡み合ってくる要素があるのではないか。

先週、くわどり湯ったり村について、桑取地区で町内会を含めた総会で4月からゆめ企画名立が経営するということで、何名かのスタッフが来て説明があった。その中で、名立区での経験を踏まえて、今後どうするか、いろいろ模索しながら地域の方々と意見交換していきたいという話があった。

地域協議会として、くわどり湯ったり村には直接関わらないが、くわどり湯ったり村は地元の魅力の一つであるし、地域協議会で地元のアピールについて検討する際にはゆめ企画名立とも意見交換する等、そういう関わり方はできると思う。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村は、昔からこの地域のシンボルのような位置付けであるので、桑取地区としては地元の一つの施設ということで、これまでと同じような関わりが続くようにも思う。様子を見ながら、必要に応じて地域協議会も関わっていきたい。

【横田副会長】

ここ1、2年地域協議会では、谷浜・桑取区に人を呼び込むようなテーマでいろいろ協議してきた。個人的には、大きく捉えると、いかにこの地区に人を集めるか、観光で来てもらうか、あるいは移住等で人が増えるか、そのためにどういう魅力を発信するかという方向づけがいいのではと思っている。

私の町内には昨年若い夫婦が入居した。インターネットを利用して仕事をするので、場所に関係ない、自然があって海まで10分ぐらいで行ける、いろいろな古民家を回ったが自分でリフォームもできる、いろいろな条件を見て移住したということだった。

私の様に長年住んでいると何が魅力なのかわからない。今度、移住した方を取材してみようと思う。移住や空き家対策について、今までピンとこなかったが、実際に移住者もみられるし、この地域にどれくらい空き家があるのか、どんな手続きで移住されるのか、これから勉強したい。

【坪田会長】

まさに地域協議会で言っている、人口を増やすための活性化の部分につながってくるので、非常にいいことではないか。「移住について、現状を知る」ということだが、視察勉強、意見交換先について、意見はあるか。

【丸山主任】

「視察勉強・意見交換 候補先」の意見を伺っているが、先ほど横田副会長の発言にあったように、「このようなことを知りたい」という視点でもご意見をいただきたい。

【白滝委員】

移住については、市の多文化共生課が担当か。空き家対策も非常に関わってくると思うが、そうすると建築住宅課がまた関わってくる。統括するような上の部分はないのか。

【佐藤所長】

多文化共生課で移住をやっている。建築住宅課でも空き家対策をやりながら、空き家に人を呼び込むということも視野に入れて、空き家対策を行っている。白滝委員のおっしゃるとおり、統括というものがあればいいのだろうが、部をまたいでの話になるので、ここで話をする場合は、双方、市から担当が来て、お互いに話をしながら、皆さんにいろいろな市の事業をお話しすることになる。

【佐藤（幸）委員】

質問だが、多文化共生課を私は今初めて知った。多文化共生課はどのような仕事をしているのか、私は全く分からない。どういう質問を出したら受け止めてもらえるのかと

ということもあるので、どういう業務を行っているのか教えてほしい。

【佐藤所長】

多文化共生課は移住関係の他に、外国人の方や国際交流の話、男女共同参画関係の話、人権同和の話というものも行っている。

【坪田会長】

まだまだ一般市民にはわからない課がある。担当部署についての情報をお願いしたい。
移住と空き家対策について、またそれぞれ皆さんの意見をお聞きしたい。

【白滝委員】

移住についても、空き家についても、すごく絡んでくると思う。私が知りたいのは、それについてのPRをどうやっていくか。例えば、市のホームページの中に空き家情報を入れるとか、そういう話をしたい。

【坪田会長】

上越市ふるさと暮らし支援センター（多文化共生課）が「移住者の受入に積極的な町内会・自治会のご紹介」という冊子を発行している。長浜も1ページ加えさせてもらった。この辺では高住、吉浦、長浜が掲載されている。空き家や地域の状況を知らせたPR的なもので、ホームページでも見ることができる。

【白滝委員】

結局、先ほど横田副会長さんもおっしゃっていたが、こちらへの移住等の話を広げるためには、この地域の魅力を発信していかなければいけない。そういうものを担当している部署とぜひ話がしたい。

【田村委員】

空き家や移住の関係で、今空いているところに誰かが入ってきて住みたいと言えば成立すると思う。谷浜、桑取地区はすごくいいところだが、是非このようなところに来て、新規に住宅を建てるという場合、この地区は地滑りなど住宅地に向かないようなエリアもある。そのようなことも少し頭に入れておかないといけないと思う。

【佐藤（幸）委員】

新築で、この地域に来てくださるという方がいれば大歓迎だが、現実的ではないと思う。空き家はものすごくたくさんある。もどかしいのは、空き家が何もされないうちに、1年経ち、3年経ち、5年経ち、最後に壊す。どこも大体そうである。なんとか手を打てれば、移住者も確保できそうだし、今の持ち主も気持ちよく譲れる。そこの橋渡しが

できないものかと思う。また、リフォーム補助金についても知りたいと思っている。

【横田副会長】

私は現状の移住の流れが分からない。市はホームページでアピールしているのか、冊子に情報が載っているのか、また不動産業者がどう絡んでくるのか、漠然としている。移住の流れ全体や機関の関りを説明してもらえると、そこでまた具体的な質問が出てくると思う。

【中原委員】

十日町市で、ドイツ人建築家が古民家をリフォームして、皆さんが移住してきているというものをテレビで何回か見た。このあたりにも古民家をリフォームされた物件があるようだ。一度、松代、松之山の状況を皆さんで一緒に見に行ってはどうか。テレビではいいところだけしか見てないが、古民家を活用して、移住者が増えているというので、もしできれば見に行きたい。

【坪田会長】

牧区や大島区に移住してきた方を結構テレビで見る。どういう形で移住しているのか、その経緯はわからないので、視察に出かけて話を聞いてみることも一つだと思う。

【笠原委員】

移住や空き家対策もあるが、まず、働く場所ではないかと思う。それがあって、初めて移住や空き家に結びつくと思う。働く場と空き家をセットにしてPRしているのか、知りたい。

【佐藤（幸）委員】

今笠原委員がおっしゃったとおりだが、かみえちご山里ファン倶楽部の人たちは、自ら雇用を起こしている。全国的にも、これはすばらしい取組だと思う。私は、もっとかみえちご山里ファン倶楽部の力を借りながら、この地域の良いものを活かしてやっていきたいという思いが強い。よそから来てもらえれば、いいところだと皆さん思っている。

【横田副会長】

棚田のオーナーになってもらう、今米が高くなっているから申込みが多いのではないかと。荒れた田んぼのオーナーになってもらって、春と秋にイベントで来てもらうような活動も気になる。

【坪田会長】

地域協議会で意見がまとまればかみえちご山里ファン倶楽部からお話を伺う方向にな

ってくる。ほかにも、そういう活動をされている団体をご存知ではないか。

【白滝委員】

フルサットはどうか。たぶん知恵はたくさんあると思う。移住や空き家だけではなく、ほかのイベント関係や行事関係にも一緒に取り組んでいけるような気がする。

【佐藤（幸）委員】

中原さんがおっしゃった家だが、私は10年ほど前に新潟から戻ってきて、地域を回っていて、大げさに言えば腰を抜かすほどびっくりした。私、そちらにお邪魔して、おばあちゃんからいろいろ話を聞いた。素晴らしい家だと言うと、やはり住んでいる人は喜ぶ。見てもらいたいという思いもあるようだ。ぜひ皆さんも行ってみてほしい。何か活かそうだ。

【坪田会長】

それも一案である。いろいろ協議して、一つ一つやっていかなければいけないと思う。一人では、見識、考え方が狭いと思うが、三人寄れば文殊の知恵ではないが、十人いれば、相当な意見が出ると思う。皆さん思ったことで結構なので、気楽に意見を出しながら、今後協議会を進めていけたらいいと思う。次回もあるので、事務局から内容を整理していただいて、また議論していきたいと思う。

その他について、事務局何かあるか。

【丸山主任】

次回の協議会の日程については、会長と相談し、調整させていただきたい。日程が決まり次第、案内を送る。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。